

## 栗山地域“まちづくり懇話会”会議録

日時：平成 29 年 7 月 3 日(月) 18:00～20:00

場所：栗山行政センター 集会室

次第：1 開会 栗山行政センター所長

2 挨拶 日光市長 斎藤文夫

3 内容 (1) まちづくり懇話会とは  
(2) テーマ「産業の活性化対策」について  
(3) 意見交換

4 その他

5 閉会

### 《意見交換内容》

**参加者：**このテーマにそって、地域の人に集まってもらってお話をして、こういったものというのを 4 点ほど申し上げますので、活性化対策としてお聞きいただきたいと思います。1 つ目は、湯西川は平家の落人の里ですが、平家の里をもっと広く、深く掘り下げていく必要があると思います。例えば、外観や働く人の服装、言葉遣い、食物、雅遊びなどを取り入れていこうというような意見が出ました。2 つ目に、インバウンドの受け入れについてですが、必要事項の洗い出し、例えば、イスラム文化も含めということで、言葉、表示、宗教、食事などです。3 つ目ですが、史跡の見直しです。パワースポットをつくろう、縁結び、子授けなどをやっていけば、観光につながるのではないかとということです。4 つ目は、自然資源の活用です。湯西川や栗山は、森林が多いものですから、バイオマス燃料を取り入れて、地域に働く場をつくったらどうか、それから、薪ストーブの薪を生産して、観光と一体にしたらどうかと、ダムがありますのでダム観光、それから、花観光というものを活性化対策や観光誘客にも、そういったものを行っていけばいいのではないかと話です。

**産業環境部長：**バイオマスの再生可能エネルギーのお話で、これを観光に結びつけるというお話なのですが、2 つの観点がありまして、観光に結びつけて集客を図るというのと、今、原発の問題もありますので、そういう観点からの再生可能エネルギーという 2 点があると思います。今のバイオマスはエネルギーのそういう観点で動いているのが事実なので、どちらかと言うと、民間主導のバイオマスになってくるのかなと考えております。市が直接、このバイオマスの施設をつくって運用して、それを観光に結びつけるというのは、今の段階では難しいのかなと、捉えております。結果として観光に結びつくというのは、1 つのアイデアでございますが、太陽光発電もそうですが、やはりこれは民間事業者にやっていただかないと、市が直接この事業に取り組むということにはならないのかなということです。お答えになりませんが、現状としては以上です。

**市長：**事前にアンケートを出していただいた中で、雅遊びの講習会や、イスラム祈り場所の設置

などが市で行うべきことと記載していただいているのですが、例えば、今、地元でこういったことをやっていますが、こういうものが足りないので支援してくださいというような話になるとありがたいです。

**参加者：**私のほうからは、栗山地区社会福祉協議会の本年度の新規事業であります、栗山マルシェ 2017 をご紹介したいと思います。現在、これは住民参加型のまちづくり活動をとおり、住民相互の交流促進や、地区外に栗山の魅力を発信するなど、栗山地域全体の活性化を図るということを目的としております。運営は、栗山マルシェ 2017 を実施していくにあたり、新たに実行委員会を組織しまして、運営や開催にかかることについて協議しながら進めていくということです。概要としましては、地区内外で採れた野菜や、個人的に創作した工芸品などを、売り買いできる市場を開催することで、観光客などに栗山内で買い物を楽しむ機会を提供する、外部者に向けて、栗山の魅力を伝える機会となるほか、総合的な目的として実施します。長期の売り買いできる市場によって、微力ではありますが、次のテーブルも考えられるかなと思います。地域の特色を活かした活気ある栗山、地域の資源を活かした栗山ブランドの開発、栗山ブランドの情報発信、栗山ブランドを契機に地域外の人との交流、住民同士の交流も活発になり、たくさんの方が活躍できることを目指しております。実施は、今年の10月21日土曜日を予定しております、時間的には午前10時から午後2時までで、予算金額は栗山地区社会福祉協議会から5万7,000円です。今、現在チラシを作りまして、募集をしているところでございます。行政の力なくして、開催場所など何1つ決めることができないということを痛感しました。こういうイベントの場合は、雨など天候に左右されますので、そういうことも対処できるような場所探しに悩んでいましたところ、行政の方から、栗山中学校はどうかということでした。こういうものは市民以外に、行政の力もお借りしたいと思います。いろいろな点でアドバイスをいただければと思いますので、よろしく願います。何とか第1回を栗山中学校でやって、だんだんノウハウなりついていくと思うので、皆さんの協力をいただいて、栗山地域は広いので真ん中に持つてくるわけにはいかないの、その点をご理解いただいて進めていきたいと思っておりますので、関係者の皆さんにご協力とご理解をいただきたいと思っております。

**市長：**すばらしい企画だと思っております。それで、市が行うべきことの中に、実行委員会のメンバーに行政に入ってほしいようなことが書かれております。これは、まだ入っていないのですか。

**参加者：**計画案の中で、栗山行政センター長に入らせていただいております。センター長に苦勞をおかけするわけですが、何事にも新しいことをはじめる場合には、いろいろな方面に折衝しなければならぬので、栗山行政センターだけではなくて本庁のほうにも、ご理解いただかないと進まないの、その点で紹介するという意味で、議題の中に上げさせていただきました。

**参加者：**皆さんご承知のとおり、この地域は、直轄ダムというのが多い地域です。特色のある地域だと思います。直轄ダムは、川俣ダムをはじめ湯西川ダムなど4つのダムがあります。その他に東京電力関係のダムがあり、特に直轄ダムについては、この特色を十分活かしていきたくないのではないかと思います。当初、つくったときは多目的ダムということで、かなり制限されて厳しかったです。これは、今、全国的に見直しされていて、観光にもどんどん開放していくようなことを、いろいろなところで耳にしたり、目にしております。それらを考えると、特にこの地域の特色は、これから大事な観光の資源として活用していかなければ、この地域は観光が主であります。誘客を生む観光施設は少ないので、ダムを活用していただきたいと思います。例えば、観光交流を通年的にやっていただけるような方向を、4つのダムで計画的にやっていただければ、誘客に対してかなりのインパクトがあるのではないかと考えております。また、この地域は自然が多く、国立公園でもあります。温泉、景観、日本一の高層湿原鬼怒沼、間欠泉とかなりの資源はあります。ただ、これらの資源を十分に手入れしながら、多くのお客さんに見てもらうには、そういうことも大事にしていかなければならないのかなと思います。市においては、財政的に厳しい状況であります。こういう資源は、安い金額で活用する方法を考えられるのではないかと思います。特に、滝などの遊歩道がかなりあります。これらも活用しながら、誘客に力を入れて、この地域の活性化を図ってほしいと思います。それと、私も地元でやれるものですが、この地域は特に過疎化で高齢者が増えています。できることは限られてくると思います。観光施設などの維持管理と、地域の観光資源を活かすための調査や研究は、我々の地域でも対応できるのかなと思っております。特に市のほうにお願いしたいのは、先ほど申し上げた国との連携とかは、どうしてもお願いしなくてはならないので、十分ご理解いただいて、観光でしかこの先見えてこない面もありますので、その辺をお願いしたいと思います。それと、この地域には若者がどうしてもいないので、観光施設の従業員が集まらないような状況であります。特に、若者をこちらへ戻すには、どうしても就労の場、水とかを活かした誘客のほうも、もし誘致が可能であれば、この地域の特色を活かして、そのようなこともお願いしたいと思います。

**地域振興部長：**まず、ダムの具体的な活用の話なのですが、平成25年度に国交省主導で鬼怒川上流ダム群水源地域ビジョンというものが作成され、国においてもダムを地域資源として、いかに活用していくかというのが最大の課題となっております。既に各ダムでは様々な取組を行っています。例えば、ダムカードの作製、ダムカレーのメニュー化、ライトアップ後の星空見学会、専門家を招いてのシンポジウムの開催など、インフラツーリズムという観点からこれらを取り込みダムツアーの企画に活かしているところです。また違った角度から、日本のダムの高い技術力というものを売りにした海外からのダムツアーを組んでみたり、当地域に限らず、こうした取組が全国的にも展開されております。この辺については、国交省と、日光市が定期的に会合を持ちながら、協力できることは協力しましょうというスタンスで臨んでおり、また、地域おこし協力隊もいろいろな面でサポートさせていただいておりますので、今後も力を注いでいきたいと考えております。

**観光部長：**ここに書いてあります自然資源の滝とかの活用というところなのですが、日光市の観光振興をやっている中の1つに、戦略の3つの柱ということで、最初に観光資源の品質強化というものを打ち出しています。日光市は、本当に多くの観光資源がございますが、それを再検証したりして、いいものはさらに積極的に伸ばす、改善すべきところは改善するというかたちで、それで、お客様の満足度を高めるということで、まさにここにあるような資源を有効に活用していくということです。ちょうど来年のこの時期に、栃木県が、デスティネーションキャンペーンを展開します。これは、ある観光資源を掘り起こして、さらに磨き上げるということです。今年はプレということで4月から6月まで、この地域でもデスティネーションキャンペーンがあったと思うのですが、そういうことを活用しまして観光誘客に努めていくということ、やっていきたいと思えます。

**参加者：**先ほどダムについて、特にこの地区は多いので、いろいろ問題があると思うのですが、ぜひ、連携をとっていただいて4つのダムで協議しながら、特殊化していただければと思います。それと、自然資源については、せっかくあるものが、木が大きくなってしまって滝が見えないとか、歩道とかについては、徐々に整備はしていただいているのですが、来ていただくからには、それなりの安全性を確保しないとイケないので、事故のないように万全を期していただけるようお願いしておきたいと思えます。

**市長：**直轄のダムが4つあるのですが、一昨年の関東・東北豪雨のときに4つで1億トン貯めたということで、復旧促進全国大会というのがありまして、私のほうから20分ほど発表させていただきました。この4つのダムが1億トン貯めなかったら、おそらく常総市の被害は更に大きかったのではないかとということで、それが日光にあるということ、PRしてきました。それから、国、県、市との連携という話がありましたが、いろいろな資源の中で、日光国立公園が国立公園満喫プロジェクトというものに指定されまして、これは国が予算をつけたり、県が予算をつけたり、当然市も関係しますが、今年度から新たな事業として、環境省で取り組みがはじまりました。

**参加者：**日光市の全体の問題だと思うのですが、空き家がかなり多いと思えます。その空き家を利用して、民泊をしてはいかがかと思えます。空き家対策の一環としても役に立つのかなと思えます。今、民泊が話題となっていますが、外国の方にはうけると思えます。地域としてできるのは、空き家の情報提供です。栗山にも空き家がかなりありまして、それをうまく利用して、民泊に使えばいいなと思えます。市には、持ち主にこういったものに使うので何とか提供してほしいという仲介業務、また、それに対してのPR活動をお願いしたいと思っております。

**地域振興部長：**空き家の問題ですが、市内にも危険空き家というものが存在しておりまして、その辺の調査というのは違う部署でやっております。この空き家調査の結果、利用できるような優良な物件も含まれていることから、それらにランクづけをして、使えそうだという物

件の所有者の方には通知を差し上げ、空き家バンクという登録制度の中に登録してもらうよう呼びかけをしようということになっています。民泊については、旅館業法上の制約が若干緩む話はあるのですが、市が主体的に関与して宿泊業のような形で運営することは難しいといえます。また、やはり民泊の場合だと、消防法やその他の法的な条件整備が最低限担保されていないと物件として利用できないということになります。もし民泊に適した物件があれば、まずは、空き家バンクのほうに登録していただくということも手段としてはあり得ると思います。実は、東武日光駅の近辺に民宿風の空き家があり、空き家バンクに登録していただいたケースがあって、そこを東京のアウトドア関連の方が、借りてゲストハウスのように改修して使いたいということで、賃貸が近々決まりそうな状況です。このような利用の幅も広げられるため、いい情報がありましたらお寄せいただければと思います。

**参加者：**私からは3点あります。まず、間欠泉周辺の整備ということで、川俣温泉に間欠泉があるのですが、1時間に1回程度噴いているのですが、その周りの環境が、あまりにも悪いのです。川に面した木が大きくなって、一定の方向からしか間欠泉が見えないのです。あと、旧ふたば荘の建物があるのですが、朽ち果ててどうしようもないので、なんとかならないかということです。あと、間欠泉のところに山王林道と奥鬼怒方面に行く道路があるのですが、その黒部のところに湯西川方面と道路に標示してあるのですが、そのようにできれば、お客さんも迷わないで行けるのではないかと思います。旅館組合のほうで間欠泉については、今、夜間に2時間ほどライトアップをしております。夜でも見学に来る方が結構いらっしゃるようです。2点目は、日光市営バスの道の駅湯西川への立ち寄りについてです。湯西川に行くのにも、川治湯元で40分から1時間乗り継ぎに時間が取られるのです。これが、直行で道の駅湯西川に行ければ、お客さんに不便をかけないで済むのではないかと思います。3点目は、女夫瀧温泉発の最終バスが15時30分で、青柳車庫着なのです。これを鬼怒川温泉まで伸ばしていただければ、お客様が鬼怒沼に行って十分帰って来られる時間があると思います。その3点をよろしくお願いします。

**栗山観光課：**景観のほうにつきましては、その周りは森林管理署の土地になりますので、改めて市から協議させていただいて、決めることができれば景観を良くするような話を進めてみたいと思います。2点目のふたば荘につきましては、取り壊し等を含めて検討させていただきたいと思います。案内標識につきましては、現場のほうを確認させていただきまして、日光土木事務所とご相談させていただきながら進めたいと思います。

**市民生活部長：**市営バスの湯西川駅の立ち寄りについてですが、現在の市営バスは生活路線ということで、そちらへの立ち寄りはないわけですが、観光面という観点からも、そういった検討をすることになっておりまして、これは検討の余地があるのかなと考えております。民間事業者の湯西川へ行くバスもありますので、そういった時間の兼ね合いもありますので、そこは検討をさせていただくということでもあります。最終バスですが、青柳支所から戻る

という都合がありまして、こういう時間をとっております。確かに観光シーズン等によりまして、可能性としてはそういったこともあるのかなということで、諸々調整が必要だと思いますので、検討ということにさせていただきます。

**参加者：**この栗山地域のまちづくりということで、広大な日光にお客様がいらっしゃるにあたりまして、旧日光市や鬼怒川温泉などでは、平成の大修理を終えまして日光東照宮・陽明門効果などにより、人手が足りなくなるほど忙しいという話を聞いておりますが、栗山地域におきましては、その効果が感じられないと、今後どうしたらいいかということで頭を悩ませているところなのです。この広大な日光に来たときに、お客様が本当に日光はいいなと思っていただけるようにしたいという思いで、今年から始まりましたデスティネーションキャンペーンに基づきまして、おもてなし部会という部門があります。その中で月1回ゴミ拾いなどをしまして、お客さまに少しでもおもてなしの心が伝わればということで頑張っております。湯西川は年内に多くのイベントを予定しておりますが、そういった誘客に努めているにもかかわらず、問題点の1番は、これから日本人だけではなくて、外国の方々を積極的に受け入れていかなければならないということで、イベントも含めて史跡などの場所にカラー写真、もしくはイラスト入りの多言語標記の看板を設置していただきたいと思います。実際に今年のかまくら祭りでは、平家の里に私は何度もいきましたが、日本人を探すほうが難しいくらい外国の方、特にアジア系の台湾、中国、香港の方々が目立っております。こういった方々へもおもてなしの心で平家の里だけにかかわらず全域で言語を標記すべきだなと感じました。鬼怒川温泉などではようこそ鬼怒川温泉へとか、ありがとうなどお出迎えのときの標記がありますが、どこからが湯西川温泉郷なのか、川俣温泉郷なのかわかりづらいということで、地区ごと何キロ先湯西川温泉郷ですとか、湯西川温泉駅に来て道の駅で温泉に入って、湯西川温泉に入って来たよと言うお客様が結構いるということなので、温泉郷のイメージができるようなわかりやすい看板を設置していただければと思います。あと、湯西川の中で、かやぶき屋根というと平家の里だけになってしまいましたが、昔は平家集落と言って、普通の民家やお店などがかやぶき屋根でしたが、そういった昔ながらのイメージをもう一度再現したいという思いが皆さんありまして、せめて湯西川支所のポケットパークのトイレの屋根をかやぶき屋根にしていっていただけないかなという意見がありました。最後になりますが、ゴミ収集料金のことなのですが、来年の春から3倍に上がるということが伝えられておりますが、今後、観光業の中でもとても厳しい状況にあるということで、一気に3倍にするということではなくて、もう一度検討・協議していただければという要望を受けてまいりましたので、ご協議していただければと思います。

**観光部長：**多言語標記のインバウンドの関係ですが、多言語標記の看板については、この地域でいけば、平家の里前と湯平の駐車場に栗山全域の案内標識がありますが、これを変えていくということは今年度やる予定になっております。それぞれのところの多言語標記の看板なのですが、カラー写真やイラストとなると、どの程度の大きさとかあるので、そこは検討というかたちになります。その他のようこそ湯西川温泉へとかの標記ですが、これもどのく

らしいの規模とか、どこにつけるとか、どういうデザインにするかとかあります。鬼怒川や川治にそういったものがありますが、奥日光の湯元温泉の入口のところのように、自治会に対する補助でやったというところもあるのです。いろいろなやり方があるので、そういうことを踏まえて相談させていただければと思います。あと、ポケットパークについては、県への要望になります。機会があったときに伝えるというかたちになります。

**参加者：**例えばの話だったので、お客様が良く通る場所で市に関係する場所や、看板があるところでもいいと思いますので、そういったところにかやぶきの屋根ができればいいかなと思います。

**観光部長：**かやぶきそのものでやると、消防法の関係などがあります。これからやるとすれば、デザイン的なものは取り入れても、維持管理も大変な状況になるし安全面のこともあるので、おそらくかやぶきそのものではなくて、そういうデザイン的なものということになるかなと思います。改修とかあるときには考えていきたいと思います。

**産業環境部長：**ゴミのお話ですが、事業系ゴミの改正につきまして、皆さま方によくお知らせできなかったことについて、改めてお詫び申し上げます。その件につきましては、先週も旅館組合のほうから要望をいただきまして、主旨は十分理解しております。細かい説明になりますが、事業系ゴミにつきましては、本来ならば原価相当分をすべてご負担いただくというのが法律で決まっております。日光市の状況を考えまして、今までは可燃ゴミは50円となっていました、今度は150円にさせていただき、不燃ゴミにつきましても10キロで150円ということがございます。資源物は今まで150円いただいておりますが、それは無料にするということで、すべて上げるということではありませんので、事業系ゴミにつきましても、なかなかゴミが減らないということが最大のポイントでございますので、これは条例等で定めて議会にも承認をいただいて進めておりますので、来年4月にこの手数料で改正をして進めさせていただきたいと考えております。ただし、毎年検証を行って、ゴミの減量が謙虚にみられた場合や、総合的に判断いたしまして、今後料金の見直しというのも十分に考えられるということがございますので、説明が不足していたことはお詫び申し上げますが、来年4月にこの料金で進めさせていただきます。

**参加者：**要望になってしまうかと思いますが、栗山地域には、湯西川から川俣をって奥日光に抜ける周遊道路があります。幅員が狭いところが多くあるために、通行するのに危険だという声をよく聞きますので、道路を広げる整備をして欲しいと思います。私も湯西川に行った帰りに通ってみたのですが、本当に狭いところは狭くて怖いなと思いながら、川俣に帰って来た思いがありますので、安心して安全に走れるようになると、ホテルや旅館、ドライブインやお店などにお客さんがたくさん来るようになって、栗山地域も潤ってくるのではないかなと思いますので、ぜひ、道路を広げる整備をして欲しいと思います。

**建設部長：**今、ご提案の周遊道路なのですが、まず一番に光徳から川俣温泉までの山王林道なのですが、こちらについては、今の林道の規格としては整備済みで、トンネルの部分だけが支障をきたしているのかなという思いはあります。川俣温泉から川俣大橋までなのですが、ここについては、川俣温泉の地区住民の生活道路になっておりますので、県のほうに要望はしております。ただ、この路線は去年から若間地区にバイパス整備を行っておりますので、この事業費が35億円ほどかかるということで、ここに県は優先をおいておりますので、この区間については、危険箇所などをやってもらう要望を、今後も引き続きしているところです。川俣大橋から土呂部峠までは市道になるのですが、ここについては全面舗装化と危険箇所の整備のために、毎年事業を取り入れているところであります。土呂部峠から湯西川温泉までは県道なのですが、30～40年近くまったく変わらない道路だったのですが、一昨年に知事が市内で元気フォーラムをやった際に、地元の方がこの道路の要望意見を出しまして、実は昨年地域の方と一緒に県のほうで危険箇所調査をやりまして、今年度から部分的な拡幅とか、そういったものをやろうと動いたところです。主に4区間に分かれるのですが、川俣温泉から川俣大橋までは生活道路ですので、県のほうに十分考えていただいているところなのですが、他のルートについては、道路の性質とか使われ方からして、なかなか動いていない状況で、距離が長いのと地形的に費用がかかるということで、今すぐというわけにはいかないのですが、徐々に動きはじめていますので、長い目で見ていただけたらと思います。

**参加者：**日光市全体を考えた観光誘客を目指していくのが私の意見なのですが、その中で、日光市観光振興計画には「ワールド」がいっぱい書いてあるが、実際進めるにあたって日光市に住んでいる身近な外国人の方に民家等に足を運んでいただいて、そういう方の言葉を素直に受け入れてはどうかと思っています。以前、小西美術工芸舎のデービットアトキンソン氏の講演会でもその様な話があったと思います。日光市でもそれぞれいい地域があると思うが、もう少し、外国人観光客の方がいろんな地域を観てまわって、いろんな所に泊まらせていただいて、いろんな体験をしていただくといった流れを作っていくことで、ゆっくりと日光を楽しんでいただけるのではないかと考えています。そのためには、広報活動として日光では何ができて、何を楽しめるかということを知りやすく観光客の方に見ていただける何かを作っていかなければならないのかなと思っています。2点目として、市所有の施設や空家の有効利用について、栗山中学校が小学校に統合されて栗山中学校跡地がグラウンドに草がはえてきている現状です。観光客も通るしこれからの管理のことも含めて跡地利用について、地元でも少しずつ声が上がってきています。例で言いますと「星降る学校」を社協の関係者の方とともに見学させていただきました。宿泊や食事、バーベキュー、体育館利用と廃校の跡地利用がとてもうまくされていて感動して帰ってきました。地域の方たちが一緒に検討委員会を立ち上げ、何かしようという意見をまとめ、実行委員会と言う形にして、その流れで可能であれば中学校跡地ですとかそういう部分で使っていきたいなという気持ちがあります。今後いろいろと相談させていただくことがあると思うのでよろしくをお願いします。



**観光部長**：デービットアトキンソン氏については、市の政策専門委員をお願いしており、観光についても様々な政策提言をいただいています。例えば、看板についても外国人の動線を視野に入れて作成するとか、ホームページについても、日本人向けの内容が多言語化されているが、外国人目線での内容を記載すべきではないか等、アドバイスをいただいております。そういった方向で進めております。外国人に向けての広報活動については、体験アクティビティとかについては、ターゲットによって情報の媒体は印刷物がよいのか SNS やインターネットがよいのかも考えながら進めていきたいと考えています。体験等については観光協会の旅ナビや市のまちあるきナビ等のアプリを使い広報しています。

**地域振興部長**：栗山中学校については、残念ながら廃校になってしまいましたが、一方で、公共施設マネジメント計画に則り、未利用施設を適正に整理していく視点が必要になると思います。そうした中で、全ての校舎をフル活用は難しいといえますが、市民団体の方が部分利用等を希望する場合には可能なケースもあると思います。いずれにしても団体のビジョンがある程度示されていて、自ら運営を担っていけるのであれば、助成も含め市がお手伝いできる余地もあるため、ご相談いただければと思います。

**市長**：今後、普通財産となり管財課の管理となるので、草等については管理できると思います。

**参加者**：栗山地域では空き家バンク登録が1件です。既に利用が決まっており登録が新規ではない状態です。今後住みたいという方がいたら、住むところがないと困ってしまうので、空き家の有効利用について啓発していただけるようお願いいたします。

**参加者**：栗山にはいいものが沢山あると思いますが、活かしきれていない部分もあると思いアンケートを記入させていただきました。野菜等生産する方がだんだん減少しており、耕作放棄地等が増えてきている現状もあるかと思います。販売できるルートを作ったり、有効活用できるアイデアを提供していただくことにより住民の方が自主的に活動するような環境をつくることができるようになると思っています。特産品についても、土産ものも外で作っているものが多く、できれば栗山で作ったもの、ばんだい餅のように地元のもので作っただけのものを提供できるように様々な面でサポートしていただけたらと思います。

**産業環境部長**：日光産のそばについては、昨年から支援制度がありますので、積極的に活用していただければと思います。地元の農産物等の販路拡大や商品開発については、今年から、農商工観連携・ビジネス創出促進事業として試作品を作ったり等、ステージに応じた補助制度をつくらせていただきました。詳しくは7月号の広報紙で周知させていただいているので、後ほどご覧いただければと思います。その他、資金については創業資金等についての融資制度もあるので、ご活用いただければと思います。

**市長：**様々な支援制度があるので、是非担当課や商工会議所に相談していただけたらと思います。

**参加者：**栗山地域は年々人口が減少し高齢化が進んでいます。そのため今まで畑だったところが草だらけの耕作放棄地となっているところが多く、観光客が通る道路沿いにもあるため栗山地域のイメージダウンにもなっているような気がします。そこで、主に道路沿いの耕作放棄地に花を植えることで景観を良くし、車で訪れた観光客が花を見ながら一休みできるような場所を造ってはどうか。駐車スペースとベンチを置くぐらいの休み場のところがあるといいのではないかと思います。また、ベンチをつくる場合には日光杉を使うとよいのではないかと思います。

**地域振興部長：**昨年から地域まちづくり事業検討会というものを市内9地域・地区で開いていただき、その中で市が行うべき事業を市民目線で提案いただく事業を実施しています。まちなかにベンチを設置する事業や、花を植える事業については、藤原地域や日光地域において実施しています。その他にも、自治会が行うまちづくりの支援制度や市民団体の方が地域貢献活動を行う場合については、補助金の制度もあるため、ご活用いただければと思います。

**参加者：**栗山の自然を活用した観光客誘致について、今ハイキングがブームで、県内外から多くのハイカーが訪れています。栗山には未整備のコースがあったり、名所へのアクセスが十分に整備されていないところもあるので、コースの整備等を行い観光客やハイカーの誘致につなげていただければと思います。2つめは、地域おこし協力隊員への支援体制について、栗山地域には多くの地域おこし協力隊がきてくれて、派遣期間終了後も何名かの協力隊員が栗山に住んでくれています。派遣が切れたあとの生活はなかなか難しいものがあるため、例えば観光関係で地域おこしを行った協力隊員は観光協会や商工会議所等で嘱託や何かで雇用してもらえるよう支援していただき、生活に不安なく地域に残れるようなバックアップ体制を構築していただければと思います。

**観光部長：**ハイキングコースについて、栗山地域に限らず市全体として同じような状況がありますが、国有林等を整備するのはなかなか難しい状況があり、現状では最低限の草刈り等をお願いしているような状況です。場所によっては、地域の方や山岳連盟をお願いしているところもありますが、基本は危険箇所を最優先として整備していきたいと考えています。

**地域振興部長：**地域おこし協力隊員への支援体制について、定住の要件となる就労の場や起業については具体的に補助要綱を作成し、隊員及び元隊員に対して、家賃や住居の改修費、なりわい起こしの準備費用や、起業を安定化させるための補助金も制度として整備し、定住につなげていきたいと考えています。また、旅館等の継業等についても、かみ合う部分があればマッチング等についても協力していきたいと考えています。

**参加者：**地域おこし協力隊は地元にとって大切な資源ですので、ある程度の期間は、生活について支援していただけるとありがたいと思います。

**参加者：**少子高齢化、価値観の変化などにより、観光事業者の家族内事業承継に不安を抱え、休業・廃業する事業者が多くなっています。個人経営の旅館業などの場合、事業承継、事業相続の許認可手続きが煩雑なため承継を断念することもあるようです。手続きが簡素化されればありがたいです。地域おこし協力隊員の皆さんは地域からの信頼も厚く、空き店舗や民宿など廃業している際に地域おこし協力隊が承継等する場合は、より支援することはできないか検討していただければと思います。実際に何人かの方から、地域おこし協力隊になら承継してもよいような意見を伺ったこともあります。

**地域振興部長：**現在の旅館経営者のビジョンもあると思われます。その折り返いもありますし、具体的にいうと、譲り方ですとか、受け手の方の将来の保障の難しさとか、中々判断が難しい場合もあるのかなと思います。地域おこし協力隊は、地域内で活性化の活動を続けておりますが、定住を前提にして自らが色々と思い描く夢や将来設計の実現に向けて、それぞれの考えでなりわい探しをしていくこととなります。それが仮に、旅館業の方の経営に強い興味があって、事業を承継するための可能性が十分あるということになればいいのですが、勿論強く誘導もできませんので、その辺のバランスというか条件のかみ合いの問題なのかなと思っております。もし、そういういいお話があれば我々のほうからもつなぎ役はできると思いますので、よろしくお願いします。

**参加者：**なかなか市のほうでは、そういったことをお勧めできない立場もあると思いますが、地域おこし協力隊の皆さんと協力する中で、1つくらいモデルができれば、これから新しい人が入って来たときにもいい結果になると思うので、これからそういうことを念頭に地域おこし協力隊の皆さんと交流していきたいと思います。

**市長：**双方でそういう方がおられるようであれば、市のほうで中に入って、どのような支援ができるか検討していきたいと思います。

**参加者：**私の希望なのですが、公民館事業でやっていただきました有害駆除で捕ったシカの皮によるレザークラフト体験教室等はとても楽しくできたので、観光客にも体験してもらい、栗山ブランドとしていけたらいいなと思っています。もう1つは、サルが多く、家の周りにも集団で来て困っているのですが、これはどうにかかりますか。

**産業環境部長：**シカの皮のレザークラフトについては、今年は農林課で予算を取りまして、シカのなめしを提供したり、講師の派遣なども行っていく予定です。栗山行政センターの係も良くわかっておりますので、相談しながら進めていただければと思います。シカやサル等の鳥獣被害につきましては、市としてもいろいろな支援を行っておりますので、身近な栗山

行政センターに相談いただいて、具体的に何ができるか考えたいと思いますのでよろしく  
お願いします。

**参加者：**私からは、基本的なことなのですが、話合いの場がもっと増えるといいなと感じています。  
これは、旅館や行政だけではなくて、栗山を元気にしようと頑張る方すべてが含まれてい  
ます。今、私自身として栗山ツアーというアウトドア体験の企画を手伝っているのですが、今回  
は川俣の話が例になっているのですが、ツアーに参加して思うのは、観光のゴールは  
何かということです。栗山は日光の中でも、過疎が本当に進んでしまっていて、人もお金も  
限られています。そういった状況の中で、イベントをやって今日は何人来ますとか、何人増  
えましたとかやっても、それが栗山地域の幸せにつながっているのかと疑問に感じる  
ことがありました。本来であれば、地域がこれを目指すというのがあって、それに対して観  
光の施策があって、やって反省して調整しながら進んでいくというのが基本だと思います  
が、今の状況は、スタートの話合いができていないと感じています。キーワードとして、学  
校跡地の活用とか、インバウンドやダムなどお話にもありましたが、そういったことが得  
意な方もいらっしゃると思います。これから、観光に関してもいろいろな問題が出てくると思  
いますので、それを乗り切るために、皆で話合う場がもっと増えるといいと思います。

**地域振興部長：**市民の方が主体的に一生懸命やっていくというのはまずもって前提の話で、そこに  
事業者や行政が関わり合いながら、いいものを見い出していかなければという連携のお話  
だと思います。これまで行政主導でたたき台の試案を作ってきた協議会や検討委員会と  
いうのは多々あったと思いますが、そうした土台が出来あがったところに市民の方に参加  
してもらおうというやり方では長続きしないという反省があります。先ほどおっしゃられた  
とおり、市民の皆さんの想いが前面に表れてきて、やる気が見えるものでないとうまくい  
かないといえます。単なる一過性のイベントなどでは、地域への効果も薄かったりします  
ので、まずは地道な取り組みを続けていくことが、高齢化集落対策の中の骨でもあると思  
っております。ないものねだりではなくて、あるもの活かすという発想でいくべきであり、  
行政では、ソフト面での支援制度もありますし、その辺は協働でやっていければと考えて  
おります。

**副市長：**今、ご提案いただいたのは、きっかけづくりとか仕掛けづくりの話だと思います。こういう  
ふうにしたいというものの紙面でいただければ、役所の中でも検討できると思います。